

ちちぶだより



わかば祭の様子

2024年 第347号

◆令和6年度「強度行動障害支援者養成研修 （基礎・実践研修（指導者研修） ーオンラインー）」の運営に参加して	村上 耕祐 …… 2
◆強度行動障害支援者養成研修（指導者研修） ファシリテーターで参加して・1・2	松本 昂紀・中田 竜太 …… 3
◆令和6年度 第1回 研修報告会	仲川 正徳 …… 4
◆新規採用・異動職員さんに聞いてみました	親松 洋海・金崎 満久 …… 4
	戸川 鎮男・太田 夏子 …… 5
◆令和6年度 秩父学園 開園記念日の集い「わかば祭」	植田 萌衣 …… 6
◆各寮の様子 初夏編	かりん寮 櫻井 朋子 …… 7
	けやき寮 真壁 毅 …… 8
	くぬぎ寮 野口 修史 …… 8
	どんぐり寮 須永 貴之 …… 9
◆熊澤先生のゆる～く かた～く 「なんで？なんで？」	熊澤 海道 …… 10
◆行事予定	10

令和6年度「強度行動障害支援者養成研修 (基礎・実践研修(指導者研修))ーオンラインー」の運営に参加して

地域支援課地域療育支援室 松上 耕祐

本研修は各都道府県で強度行動障害支援者養成研修を運営する、指導者向けの研修です。長年国立のぞみの園が本研修の運営を担っており、秩父学園は国立施設として、強度行動障害への支援や発達や行動が気になるお子さんを支援する支援者へのサポートなどを行っていることから、6月に計7日間、のぞみの園で運営として研修に参加し運営側の観点から勉強させていただきました。

研修については、基礎研修2日間と実践研修2日間がそれぞれセットとなっており、今年度は基礎研修と実践研修がそれぞれ2回実施されました。今年度は全ての日程を合わせると、約230名の各自治体の指導者となる受講者がいらっしゃいました。北海道から沖縄県まで、全国の都道府県から受講者がおり、新型コロナウイルスが流行した時期より、Zoomを使用しての開催となっています。研修は演習が多いため、4,5名ずつでグループ分けされており、それぞれのグループにファシリテーターが付いていました。

毎日、研修開始前と研修終了後に、運営及び運営補助業者、講師、ファシリテーターで、確認事項や問題のある受講者の情報共有や対応についてミーティングを実施していました。

運営に関わっていたのは、のぞみの園と運営補助業者どちらも2名でした。のぞみの園は1名が主担当として、Zoomに入室できないという受講者からの問い合わせへの対応、時間になっても受講者が入室していない場合の受講者への連絡や、受講者の受講態度に問題がある場合、まずは運営補助業者が受講者に連絡しますが、それでも改善しない場合は受講者を推薦した都道府県に連絡をするという役割が主でした。のぞみの園の副担当は、主担当が電話対応等の様々な対応をしている時に、対応しなければならないことが発生した場合のフォローに入る役割を主に担っていました。運営補助業者は司会進行や注

意事項等の受講者へのインフォメーション、受講者の出席管理、受講者の受講態度のチェックと受講態度に問題がある場合の連絡、受講者のパソコンの技術的なトラブルへの対応、講義中に必要な動画を流す等の役割を担っていました。

研修運営をやる上で役に立っていたのは、グループチャットを使った、運営、運営補助業者、講師、ファシリテーター間の様々な情報のやり取りでした。グループワーク中にトラブルが発生した時や、受講者の受講態度に問題がある際の連絡、講義時間が延びた時の休憩時間の確認、その他にもさまざまな情報共有がされており、グループチャットのおかげで研修が円滑に運営されていると感じました。

研修の開催がZoomに変わった当初は受講者が不慣れなためトラブルが多く、研修中もその対応が多かったのですが、近年はほとんどトラブルもなく、円滑に研修が実施されているとのことで、今回も基礎研修1日目の研修が始まる前に、入室できないなどの連絡が数件ありましたが、それ以外の通信やパソコン関係のトラブルはほとんどありませんでした。運営主担当の方によると、事前の事務手続き等の様々な準備の方が仕事のウェイトとしては大きいとのことでした。これは、同じ運營業者が長年この研修を担当しており、慣れていることも大きいと感じました。

7日間の研修の中で、運営側の問題として、グループワークで使うワークシートのフォーマットの形が昨年とは違うソフトの形式になっており、入力しにくいとファシリテーター間で混乱が生じたことがありました。グループワーク中に従来の形式のワークシートをデータでアップすることで対応していました。

研修中の運営としての対応で一番難しいと感じたことは、問題のある受講者への対応でした。強度行

動障害の状態にある方への支援について以前に、基本的な支援についての理解に乏しく、グループワークについていけないような方がいらっしゃいました。その都度、のぞみの園の運営担当の方が、迅速に都道府県に連絡して対応を依頼したり、講師陣やファシリテーター、厚生労働省の担当者と相談したり、情報を共有するなどして、問題解決を図っていらっしゃいました。

今までファシリテーターとして本研修に関わった

ことはありましたが、今回は研修当日の運営の動きの実際を知ることができ、とても参考になりました。のぞみの園の研修担当者の方には、時間を取っていただき、事務的な事柄を含め、様々な情報を教えていただきました。今回の経験やいただいた情報を秩父学園内で共有し、秩父学園における人材育成等に生かしていきたいと思っています。

強度行動障害支援者養成研修（指導者研修）ファシリテーターで参加して・

1

療育支援課 どんぐり寮 松本 昂紀

今回、初めてファシリテーターとしての参加となりました。普段は寮勤務となり、利用者様への直接支援を行っており、4日間のみの対応ではありましたが、私自身とても勉強になりました。

本研修は指導者向けの研修となり、受講される方々の大半は実際に強度行動障害に該当する方への支援を実践されている方々となります。また、各都道府県において強度行動障害支援者養成研修の講師やファシリテーターとして研修運営をされている方々です。中には私のように現場での支援を行って

いる方もいましたが、そのような方の中には、令和6年度報酬改定により強度行動障害支援者養成研修を受講する方が増加することを想定し、講師やファシリテーターの増員を図る為に受講することとなった方もいました。

報酬改定に伴い、強度行動障害支援者養成研修を希望される方も多くなると思います。座学やグループワークを通して、求められる理解度を得てもらえるように小集団の中でファシリテーターがフォローすることが大切であると感じました。

強度行動障害支援者養成研修（指導者研修）ファシリテーターで参加して・

2

療育支援課 くぬぎ寮 中田 竜太

6月下旬に開催された令和6年度強度行動障害支援者養成研修（6月24、25日基礎研修（指導者研修）、6月27、28日実践研修（指導者研修））にファシリテーターとして参加させていただきました。各都道府県で研修を企画・運営する指導的役割を果たす人材を養成するための研修です。

研修参加者には令和5年4月より都道府県が実施する強度行動障害支援者養成研修の受講対象になっていることもあり、教育機関からの参加もありました。

私自身ファシリテーターとして研修に参加するのは初めての経験となりましたが、研修前には、書籍の読み返し、同僚との情報交換をして臨みました。

研修では、参加者を通して各都道府県の課題や、状況の情報交換を行うことが出来、貴重な経験となりました。「ファシリとして」ということが先行しがちでしたが、現場経験で培った知識を基に共通する学びを得るため、共に受講する姿勢をもち知識を創りあげていく気持ちが大切であると感じました。

令和6年度 第1回 研修報告会

令和6年7月3日第1回研修報告会が開催されました。今回の報告会は、「こどもの虹情報研修センター 横浜いずみ学園」「社会福祉法人 慈徳院 児童心理治療施設 子どもの心のケアハウス 嵐山学園」「鉄道弘済会 総合福祉センター弘済学園」3施設の見学を複数名の職員で行い代表者が報告を本館大会議室で行いました。

報告では、各施設の特徴や個々の感想が寄せられました。今回の報告会で印象的だったことは、「秩父学園で生かせそうなこと」を報告者全員が語ってく

れたことです。

今回の研修報告会は、中堅職員研修の一環で、事前準備（資料準備・機材準備）、当日の運営（司会進行等）を行いました。担当職員からは、事前準備を分担して行えば良かった、当日は、時間を気にしすぎて発表者への声かけまで気が回らなかった等の声があり、第2回研修報告会は、聴講型か参加型にするかなどの検討を早めに準備することを確認し、第1回研修報告会を終える事ができました。



1	こどもの虹情報研修センター 横浜いずみ学園	櫻井朋子
2	子どもの心のケアハウス 嵐山学園	勝又祐喜
3	総合福祉センター 弘済学園	山本文世

新規採用・ 異動職員さんに 聞いてみました

今年度、数ヶ月経ち秩父学園に入職した職員や異動してきた職員に次のことを聞いてみました。

- ①秩父学園に就職したいと思った動機
- ②秩父学園の第1印象 ③6月10日時点での感想
- ④今後こんなことをしてみたい、こんな職員になりたい
- ⑤自由記述です。どんな回答があったかをご紹介します。

療育支援課 けやき寮 親松 洋海

- ①まさか異動になるとは思いませんでした。正直、驚いています。
- ②伊東重度障害者センターから国リハに異動の時から、秩父学園の官舎に住んでいたの、これと言った印象はありませんでした。一度、夜間の避難訓練

に参加しました。

- ③長年介護の仕事をしてきて、今は全く正反対の仕事内容の為、2ヶ月経過しても全然慣れないです。
- ④何もかも吸収していきたいです。
- ⑤ご迷惑をお掛けしますが、宜しくお願いします。

療育支援課 どんぐり寮 金崎 満久

- ①私は群馬県にあります国立のぞみの園で昨年より生活支援員として勤務していました。秩父学園に異動と言われた時は初めての土地や施設で働く事への不安もありましたが、それ以上に期待もありました、今まで他施設を含み障害者支援で8年程働いて来ましたが、いずれも成人の利用者への支援であり児童

への支援は初めてであったからです。秩父学園に行くまでの間は想像で児童への支援とはどういった物であろうか、秩父学園とはどんな所であろうかと色々思い描きながら実際に秩父学園で児童と共に過ごせる事を心待ちにしていました。

- ②初めて秩父学園に来た時に児童の元気な声や姿を

見聞きして、改めて自分が児童の施設に来たのだと実感する事が出来ました。また、元気な児童の姿もさることながら職員も皆明るく児童に真剣に向き合って支援をしている方ばかりで、このような施設で学ばせて頂ける事が大変嬉しく思いました。

③秩父学園に来て早2ヶ月になります、この2ヶ月の短い間でも児童との間で色々な出来事がありました。自分一人では対応が難しく先輩職員の助けを借りた事も多々ありました、大変な事は沢山ありましたが、それ以上にエネルギー溢れる児童に触れて自分

自身が元気を貰っているような気持ちです。まだまだ支援の難しさばかり感じてしまう事もありますが、児童から元気を貰いながら支援に取り組んで行きたいと思います。

④今回は研修生として1年間秩父学園で学ばせて貰います。児童への支援や強度行動障害の方への支援は余り経験がありませんでしたので、今回の研修でしっかりと学ばせて頂きのぞみの園へ持ち帰り今後の支援に生かして行きたいと考えています。

療育支援課 作業療法士 戸川 鎮男

①学園には研修で何度か訪れたことがあり、園内の雰囲気がとても良いという印象を持っていました。秩父学園で作業療法士を募集しているというお話を伺った時は、チャンスだと思いました。療法士としての仕事内容をお聞きしたときにも、自分の持っている力を生かせる場があると思い、ますます興味が沸きました。

②軽井沢に来たみたい…

③毎日いろいろなことが起こる、スリリングでエキ

サイティングな職場!?だな…と感じています。

④“あそび”を生かして、楽しいことをたくさんの方と共有できたらいいなと思っています。諸先輩方の様な、優しいけど力持ちな職員になれるように頑張ります。

⑤仕事のことも、そうではないことも、たくさん楽しいことを教えてください。今後ともよろしくお願いいたします。

療育支援課 かりん寮 太田 夏子

①②秩父学園との出会いは社福の職場実習でした。その敷地の広さから内部の様子を感じることでできない秩父学園。不安な気持ちを抱えながらの実習初日、敷地中程の寮では児童と職員の楽しそうな笑い声が溢れていたのです。「緑いっぱいの敷地の奥にこんな素敵な生活の場があるなんて!」というのが、第一印象でした。そして、実習を終える頃には「いつかこの学園の仲間に入りたい」と強く感じ、その想いが志望動機の軸となりました。

③念願叶って入職させていただいて2ヶ月余りが経った今、児童たちと楽しく関われる時間が増えてきた一方で、信頼関係構築の難しさと向き合いなが

ら多様な課題やその支援の困難さに直面し、学ぶべきことが果てしないことを実感しています。

まずは、チーム力抜群の先輩方のご指導のもと、一つ一つ丁寧に吸収していきたくと思っています。

④支援者として目指すのは、児童の笑顔溢れる毎日です。抽象的ではありますが・・・児童のワクワクするような気持ちを大切に支援を実践し、眠りにつく頃には明日が来るのが待ち遠しくなるような毎日を一緒に作っていききたい、そんな想いを持ち続けていきたくと思っています。

⑤一日一日を大切に、丁寧に取り組んでいこうと思っています。

*今回は、4名職員のための掲載ですが、次号では残り2名の「新規採用・異動職員さんに聞いてみました」を掲載していく予定です。ご期待ください。(仲)

令和6年度 秩父学園 開園記念日の集い「わかば祭」

療育支援課 くぬぎ寮 植田 萌衣

令和6年6月8日に、秩父学園創立記念『わかば祭』が行われました。当日は、秩父学園小運動場で、晴れやかな空と新緑のもと盛大に開催することができました。



今年度は、令和元年以来のご来賓の皆様をお呼びしての開催でした。ご多忙の折、ご家族の皆様やご来賓の皆様、ボランティアの皆様、たくさんの方にお越しいただきました。

そんな、懐かしさと華やかな雰囲気包まれながら、『わかば祭』スタートしました！

まずは、ご来賓の皆様、日々秩父学園にお力添えをいただいているボランティアの皆様の紹介を行い、寮の代表児童&職員による各寮の紹介と進んでいきました。手作りのパネルを持ち、それぞれの寮についてユニークに紹介してくれました。寮によって独自のイベントを開催しているため、普段の様子を知っていただける良い機会になったと思います。

『秩父学園 児の歌』斉唱は、ご厚意のもと『天理教 本芝房ハーモニックウィンズ』の皆様の



伴奏で行われました。生演奏で聴くことができる機会は大変貴重であり、とても贅沢な時間だったと思います。

そして、皆様お待ちかねの舞台発表のお時間です！

秩父学園児の歌を演奏して下さった、『本芝房ハーモニックウィンズ』の皆様の再登場です。流行の曲・子ども達も知っている曲の演奏やカラーガードの皆様は、とても煌びやかな発表で、会場の熱気

が高まりました。それに留まらず、子ども達が音楽やダンスに惹かれてステージに近付くと、笑顔で迎えてくださいました。子ども達が、コロナ禍の閉塞感を乗り越え、発表者の皆様と一緒に開放的にダンスを楽しむ姿には心打たれました。また、後述のゲームコーナーにおいても、発表者の方が店員さんとして盛り上げてくださいました。秩父学園以外の方々と触れ合うことができた体験は、楽しい思い出として、これからも子ども達の心の中に残り続けるのだと思います。

児童の有志発表はいかがでしたでしょうか。初めは、大勢の方々の前で歌やダンスを披露することに



緊張の面持ちでしたが…なんと本番に強い皆さんでしょう！晴天に負けないくらい、眩しく輝いていました。

かりん寮は、児童&職員の合同発表で、手作り衣装も相まって可愛らしさが際立っていました。発表後には、会場の皆様に盛大な拍手をもらい、達成感のある、すがすがしい表情で満ちていました。

舞台発表のラストは、新任・異動職員による仮装&ダンスの発表です。時間を縫って練習に励んだ成果が、会場の盛り上がり表れていました。

閉会式を経て、ゲームコーナー（ひもくじ、射的、的当て）が開催されました。列ができるほど賑わい、的にヒットした時には特に大きな歓声が上がりました。会場での飲食は実施しない形での開催が決定している中、何とか景品を…と考えついたのが、「持ち帰って食べられる、種類が豊富、おやつに丁度良い量」そう『ぶためん』でした。ひもくじの景品として設定したところ、児童からは良い反響がありました。

今年度は、初めての試みでしたが卒園児童も駆けつけてくれました。久しぶりの再会に花が咲きまし

た。ゲームコーナーでは店員さんを務めてくれ、秩父学園での経験が、今の生活に活かしている姿が垣間見られたことは、職員にとっても励みにもなりました。

わかば祭初参加・初企画ということで、当日まで手探りの毎日でした。指揮を執ることの難しさを感じると同時に、学園職員の存在がとても心強く、無事開催を迎えられたことへの感謝でいっぱいです。



しゃてき



たまいれ



「わかば祭」のシンボルです

各寮の様子 初夏編

かりん寮

今年も5月には夏のような暑さになりました。いつもは元気満々のかりん寮の女の子たちも、この季節外れの暑さには「暑すぎるよ～」と困り顔。そんな暑い今年の夏を乗り切ってもらおうと、かりん寮では6月にクエン酸たっぷりの梅サワージュースづくりを行いました。梅サワージュースを作るのは、みんな初挑戦ということで、しっかりと説明を聞いて始めます。きちんと手を洗い、それぞれ順番に瓶の中に梅と氷砂糖を順番に重ねていきます。

みんな真剣な顔で重ねていき、最後にリンゴ酢をまわし入れて蓋をして完成です。「これ、すぐ飲めないの?」「いつ飲めるの?」と待ちきれない様子。職員が、「夏休みが始まる頃に、ちょうど飲めるようになりますよ。」と説明しました。さて、作業が終わったかのように思えますが、梅サワ



ジュースは瓶詰してから、毎日1回瓶を回して中身の濃度を均一にする仕事があります。また、梅からエキスが出てきて、ジュースが黄金色になる様子を楽しんでもらえるように、瓶は皆が集まるホールからよく見える職員室の窓際に置きました。時折、「まわしたい!」と言って、瓶の中身をなじませる作業を手伝ってくれる子もいます。その際には空気を抜くため蓋を一度外すのですが、その時に日々変わる梅サワージュースの匂いも体験してもらいます。「いいにおい～」や「なんか、すっぱい! だめかも～!」など様々な感想を言い楽しんでくれています。これから暑い夏が始まります。行事にプールにと大忙しな夏。みんなで作った梅サワージュースを飲んで、元気に乗り切ろうと思います。



櫻井 朋子

けやき寮

今年は梅雨入りも遅く、暑い日が続きました……という言葉が毎年聞かれている気もしますが、皆様お変わりございませんでしょうか。

今回は、けやき寮のお子さんたちの余暇についてお伝えします。散歩が好きなお子さんが多く、紫陽花を眺めたり、キュウリの前で立ち止まったりしながら楽しんでいます。『キュウリの花は咲いてすぐ実になるのに、職員の話はちっとも実にならないな』なんて思っていないか、職員はドキドキしていますが、それよりキュウリの成長が気になるようで、一



番大きなキュウリを見つけることに全集中しています。他には、ゲームの

シナリオ作成に没頭しているお子さんもいます。以前は自分の世界に入って周りは目に入らないような



ところもありましたが、最近ではできあがったシナリオを学校の先生や友達に見せて共通の話

題にしているようです。また、体育館でカラオケを楽しむお子さんもいます。仮面ライダーや戦隊ヒーローのテーマソングが中心ですが、昭和から令和まで50年分の曲が頭に入っていることに驚きます。自分の好きなものがあるというのは羨ましいかぎりです。これから夏休みが始まります。自分の好きをたくさん見つけられるよう、スイカ割り、かき氷、プール等いろいろなイベントを用意していますので、夏休みを楽しんでもらえればと思います。

真壁 毅

くぬぎ寮

春休み、くぬぎ寮の児童の皆さんは新学期が始まる方、中学、高校へ入学する方とそれぞれ気持ち新たに、思い思いの時間を過ごしました。4月は職員の人事異動もあり、初めましての職員や、久しぶりにくぬぎ寮に帰ってきた職員と様々でしたが、少しずつ児童の皆さんと関わり、関係性を作りながら、



日々の余暇時間を一緒に過ごしました。週末は散歩や買い物など、児童の皆さんそれぞれ好きな活動をして楽しまれています。

5月のゴール

デンウィークでは、クレープ作りとフルーチェ作りを行いました。児童の皆さんはそれぞれ料理の工程を楽しみながら取り組まれました。クレープ作りでは、「上手にできたよ」「すごいでしょ」と、



上手に作ることができた完成品のクレープを、嬉しそうに見せてくれる児童の方もいらっしゃいました。

6月8日は、開園記念日「わかば祭」がありました。新型コロナウイルス感染症の影響で、しばらくの間来賓など関係者を混じえた開催が難しく、来賓の皆様を混じえた従来通りの開催は、おおよそ5年振りとなりました。今年度のわかば祭は学園OB、OG、学校関係者や施設関係者など、多数の来賓の方

が参加され大いに盛り上がりました。ボランティアでは「本芝房ハーモニックウィンズ」の方々による吹奏楽隊の演奏がありました。迫力のある演奏でくぬぎ寮の児童の皆さんも、日頃ほとんど聴く機会のない演奏を楽しまれていました。また、「秩父学園児の歌」も吹奏楽隊による演奏があり、開園記念日にふさわしい、素晴らしい演奏を聴くことができました。

た。「本芝房ハーモニックウィンズ」の皆様、ワクワクするとても楽しいひと時を、どうもありがとうございました。



今後も行事のほか、児童の皆さんが楽しみにしている外出なども計画し、楽しい経験や思い出作りができる、明るく楽しくくぬぎ寮にしていきたいと思っています。

野口 修史

どんぐり寮

6月までの過ごしの様子をご紹介します。



4月。今年度は職員の人事異動が多くありました。児童の皆さんにとって人的環境も大きな環境要因ですので、生活環境は大きく変化したと言えます。特に高校進学の日を迎えた方にとっては大変な変化を迎えた4月になったことと思います。職員にとっても長い4月でしたが、児童の皆さんにとっては期待と不安が大きい4月となったかもしれません。

5月。まだまだ新しい環境に慣れない中でゴールデンウィークを迎えたので、お出かけは控えて寮内でお菓子を作って楽しみました。下旬には学校で体育祭がありました。天気がとても良く、暑くて日に焼けてしまうような陽気でした。どんぐり寮からは高校1年生～3年生までそれぞれ参加されました。

4月。今年度は職員の人事異動が多くありました。児童の皆さんにとって人的環境も大きな環境要因ですので、生活環境は大きく変化したと言えます。特に高校進学の日を迎えた方にとっては大変な変化を迎えた4月になったことと思います。職員にとっても長い4月でしたが、児童の皆さんにとっては期待と不安が大きい4月となったかもしれません。

結果は3年生が流石の貫禄を見せて優勝。1・2年生からは「悔しかった」という言葉とともに「流石に3年生は強かった」と勝利を称える言葉も聞かれました。

6月。秩父学園では例年「わかば祭」という開園記念祭が開催されました。今年度はコロナ禍を経て久々にご来賓・ご家族・退園された児童の皆さんをご招待させていただき、快晴の下で開催となりました。どんぐり寮の皆さんはご家族と一緒にテントで穏やかに過ごされており、経験の深さや成長を感じられる場面となりました。

この紙面が皆様のお手元に届く頃には暑い夏の真っ只中だと思います。熱中症に気をつけつつ、皆様も暑すぎる夏を楽しみましょう！



須永 貴之





熊澤先生の「ゆる～く かた～く」

「なんで?なんで?」

国立障害者リハビリテーションセンター病院 歯科医師 熊澤 海道

天然パーマの私にはうねりの厳しい季節になってまいりました(梅雨時期に執筆しました)、どうも熊澤です。

突然ですが、近年の熊澤は「なんで?」と考えることが大事じゃないか!と思っています。特に子ども達や知的・発達障害のある方達と関わり合いを持たせてもらう中で、「なんで?」の重要性に気付かせてもらうことが多々あります。たとえば歯医者でいうと、仕上げ歯磨きが「できる日」と「できない日」がある人がいらっしゃると思います。ここで「なんで?できる日とできない日があるんだろう」と考えてみます。「できた日は歯磨きの前に〇〇していることが多いな」とか「できなかった日は歯磨きできなかった後、お風呂も入れなかったな」など「なんで?」ひとつで色んな可能性が湧き出てくるではありません

か。そうすると自然にその人を理解する方向へ向かうと同時に「じゃあどうすれば…」という思考になっていくのを感じます。もちろん人間ですから気分が乗らなかっただけの時もあるでしょう。しかし、行動には「理由」がある!と考えることで、その人が感じている快・不快を知ることや発語がない人などでは意思表示の発見なんかに繋がってくるかもしれません。熊澤はこう思います。「なんで?」と思い「理由」を探り、「理由」を知って「じゃあどうする?」と考える…これって合理的やん!ってね。

誰かに「なんで?」と聞かれた時はちゃんと「理由」を言える大人になろう!と思う今日この頃です。



行事予定

- 8月3日 自閉スペクトラム症子育て支援セミナー
- 8月22日 夏祭り
- 10月～11月 インフルエンザ予防接種
- 11月 所沢特別支援学校トコトコフェスティバル
- 11月14日 合同防災訓練



編集後記

今年、退職なさった職員の大先輩からお手紙をいただきました。私はお名前は聞いたことはあったのですが、入職した頃は、もう退職なさっていました。そんな大先輩から「ちちぶだより楽しみにしている」と激励に感激してしまいました。先輩、今回はいかがでしたか。(仲)

発行日 令和6年8月23日
 発行 国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局 秩父学園
 住所 〒359-0004
 埼玉県所沢市北原町860
 TEL 04-2992-2839
 FAX 04-2995-2253
 chousa-chichibu@rehab.go.jp

